

事態が成立することになったのではないだろうか。

この点は、「知的探求の世俗化 Secularization」のプロセスともとらえることができるものであり、さらには近代における「学問探求の高度な制度化」の結果としての近代国家における大学という学問探求の場の在り方——哲学も含めてどの学問にも Science になろうとする競争と Science だと自称する流行が生じた——とも密接に関わっていると言えるだろう。

そして時代はさらに下がって、「Science の自由」のなかで人類の存続さえも危ぶまれるような状況に立ち至っている。昨年 9 月にローマ教皇がレーゲンスブルク大学でした講演「信仰、理性、大学」において、近代以降の「理性」概念の自己限定に警鐘を鳴らして、理性概念と理性の使用の拡張を提唱したのも、Sapientia と Scientia の関係如何を問うているのに違いない。その意味で、これはすぐれて現代的問題でもあると考えられよう。

意見

桑原直己

司会の川添氏は、近代哲学の代表的人物は「大学人」ではなかった、という事実を指摘された。この点に関連して、注意を喚起すべきと思われる一点を指摘しておきたい。それは、中世から近代にかけて「大学」そのものが変質した、という事実である。

加藤氏が暗に言及しかけたと思われる「自生的大学」と「創られた大学」との対比にはきわめて重要な意味がある。中世においては「自生的大学」——さらには大学が外部の地域権力と闘争した結果成立した「大学の自治」の金字塔ともいべき「移住による大学」——こそが大学の本来の姿を示すものであった。中世という政治的に多元的であった社会において、「知識人のギルド」たる大学が自ら一個の独立した政治的勢力として「自生」した。ここに本来の意味での大学の原点があるように思われる。まずそれは、伊藤氏が引用されたル・ゴフが「きわめてはっきりした身分」として言及する「知識人」概念が成立する基盤であった。彼らは大学の「教師」としての「思索と教授」という明確な社会的役割を担っていたがゆえに、同業者組合としての大学に結集しえた。また、大学は坂部氏がヴォリンガーらに託して中世音楽の「多声

性」との類比を指摘された中世的な特色を示す知的世界の土壌でもあった。外部権力に対しては政治的に結束した大学は、内部的には相互に緊張関係を孕んだ多元的な立場を包含していた。トマス・アクィナスなど新たに大学に進出してきた托鉢修道会の教授団に対して、既存勢力であった教区（在俗）聖職者身分の教授団が激しい抵抗を示したし、アリストテレス受容をめぐることは、トマスは「ラテン・アヴェロエス主義者」たちによる急進的アリストテレス受容と、「保守的なアウグスティヌス主義者」たちによるアリストテレスの拒絶という左右両翼に対抗して論陣を張った。トマスとボナヴェントゥラという二人の代表的なスコラ学者をとってみても、前者の論争では両者は共同戦線を張る一方で、後者の論争では論敵同士となる、というように相互に複雑な関係を示していた。このように、政治的には一致団結して自由な空間を形成しつつ、真理を目指して多様な立場が競い合っていたのが中世盛期の大学の姿であった。

他方、トマスが最初に学んだナポリ大学は、皇帝フリードリヒ2世によって設立された最初のいわゆる「創られた大学」である。このナポリ大学を皮切りとして、特に14～15世紀には、大学の知的な威信に着目した皇帝や国王などの世俗の政治勢力が自ら大学の設立に乗り出すこととなる。このタイプの大学の系譜の延長線上に近代的な「国立大学」が位置する、と言ってよい。社会全体が近代的・中央集権的な「主権」国家の時代に向かう中で、大学も「自生的大学」「移住による大学」が有していた独立と自治の性格を失い、「創られた大学」「国立大学」へと変容し、自由な真理探究の場から、主として官僚の養成機関へとその意義を変えていった、と言えよう。そうした変化の中で、大学は自由な知的探求の場としては力を失い、その結果、政治的有力者を直接にパトロンとする新しいタイプの知識人——その中にデカルトやライプニッツのような「代表的な近代哲学者たち」も含まれる——の方がむしろ自由に創造性を発揮し得るようになったのではなからうか。

中世から近代への時代の変化を知的な意味で「進歩」と見るか「退歩」と見るか、という問題は、もとより一義的な回答を与えうる問題ではなからう。ただ、従来は無批判に進歩史観が支配的であったがゆえに、「退歩」を見る——裏を返せば中世の側に何らかの知的優位性を見る——論点には注目して検討する価値がある。上述したように、真理探究の場としての「大学」の意義については、明らかに退歩があったのではないかと想像する。そしてその変化は、政治的に多元的な中世社会から、集権的な「主権」国家へという社会全体の変化を反映しているように思われる。